様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ２０６４５

研究課題名（和文）地域に根ざした歯科医療体系確立のための基礎研究

研究課題名（英文）Fundamental research for establishing community-based dental care system

研究代表者
中山　歩（NAKAYAMA, Ayumi）

鹿児島大学・医歯学域附属病院・助教

研究者番号：１０３９８２９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：へき地・離島において、地域に根ざした歯科医療体系を確立させるために、へき地・離島における歯科医療の現状を明らかにすることを試みた。本研究では、鹿児島県の離島・鹿児島市内の歯科医師、鹿児島県の離島で歯科医院が設置されていない島の住民に対し、質問紙調査を行った。その結果、離島で提供されている歯科医療の現状と問題点、歯科医院のない地域に在住する住民の歯科受診状況などが明らかとなった。本研究で得られた成果は、今後の医療人材育成のための資料とするとともに、行政機関にフィードバックする予定である。

研究成果の概要（英文）：To establish a community-based dental care system in remote regions and remote islands, we tried to clarify the current situation of dental care provided at remote regions and remote islands. In this research, a questionnaire survey was performed to dentists in remote islands in Kagoshima prefecture, to dentists in Kagoshima city, and to residents of the islands without dental clinic. As a result, the current situation and problems of dental care provided at remote islands, the current situation of dental check-up of residents living in areas without dental clinic were clarified. The results obtained in this research are to be used for training human resources and to feed back to administrative agencies.

研究分野：歯科医学教育学

キーワード：地域医療　へき地医療　離島医療　超高齢社会　地域包括ケアシステム

１．研究開始当初の背景

へき地・離島医療の重要性が示され、医科と同様に、歯科においても各教育機関でカリキュラムが構築されつつあるが、これらのカリキュラムは主に医科におけるものを参考にしたものである。また、地域包括ケアシステムの構築も提唱されており、これらの問題を踏まえて、歯科に特化したものを構築する必要があると考えられるが、そのためには、へき地・離島における歯科医療の現状と問題点を調査・分析し、教育カリキュラムに取り入れる必要がある。具体的には、へき地・離島において、歯科医療従事者がどのような歯科医療活動を行い、どのような問題を抱えているのか、都市部との相違は何か、そこに在住する地域住民が持つ歯科医療に対するニーズは何かなどを調査・分析する必要がある。これらの取り組みにより、地域で活躍する医療人の育成を通じた「地域に根ざした歯科医療体系の確立」が可能になると考え、本研究を立ち上げた。

２．研究の目的

(1) 研究 1

へき地・離島における歯科医療体系を確立させていくためには、まず現状分析が重要である。本研究では、へき地・離島での歯科医療が都市部とどのように異なるか、現地の歯科医療従事者がどのような問題を抱えているかを明らかにすることを目的とした。

(2) 研究 2

へき地・離島と対称となる都市部において歯科医療の現状を分析することも重要である。本研究では、都市部で歯科医療従事者がどのような問題を抱えているか、歯科医院に通院が困難な地方と都市部ではどのような違いがあるかなどを明らかにすることを目的とした。

(3) 研究 3

へき地・離島は、都市部と社会的環境が異なり、在住する住民の医療に対するニーズも異なる可能性がある。本研究では、へき地・離島に在住する住民の歯科受診状況、歯科医療に対する意識を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究の実施する対象地域は、鹿児島県とした。鹿児島県は南北約 600㎞ にわたる県域に有人離島を 26 島有し、そこに在住する離島人口は約 16 万人を有する（平成 27 年国勢調査）。離島の中には、歯科診療所が設置されている島もあるが、三島村（竹島、硫黄島、黒島）、屋久島町口永良部島、十島村（口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島、宝島）などの島には、歯科医師は常駐しておらず、現地での歯科治療は離島歯科巡回診療によって行われている。これらの状況を考え、本研究を実施する対象は鹿児島県が適していると考えた。

(1) 研究 1

鹿児島県歯科医師会の協力を得て、同会に所属する歯科医師のうち、鹿児島県で歯科医院が設置されているの離島（上甑島、下甑島、種子島、屋久島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の計9島）に従事する60名を対象にアンケート調査を行った。無記名式質問紙を各会員に対して郵送し、同封の返信用封筒で返信いただいた後、分析を行った。

(2) 研究 2

鹿児島市内で歯科診療所を開設し、鹿児島大学歯学部臨床実習の協力施設に従事する歯科医師 27 名を対象にアンケート調査を行った。無記名式質問紙を郵送し、同封の返信用封筒で返信いただいた後、分析を行った。

（3）研究 3

鹿児島県で歯科医院の設置されていない離島を管轄する屋久島町、十島村、三島村の協力を得て、屋久島町口永良部島、三島村（竹島、硫黄島、黒島）、十島村（口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島）の計 11 島に在住する 20 歳以上の住民 875 名を対象にアンケート調査を行った。無記名式質問紙を各行政機関より配布し、各行政機関にて回収していただいた後、分析を行った。

４．研究成果

（1）研究 1

回収率は、42%であった。

「離島における歯科医療は都市部とどのような違いがあるか」との問いに対する自由記述をセンテンスの内容の類似性により分類を行ったところ、「診療内容」、「地理・経済」、「患者の意識」の 3 つの事項に分類された（図 1）。「診療内容」は、さらに“専門科でなく歯科医療全般的な知識が必要である”などの「専門性」、“自由診療はごくわずか”などの「患者希望」の 2 つに分類された。「地理・経済」では、“通院する距離、時間がかかるため、患者さんの通院する回数が減り、治療が思うように行かないことがある”、「患者の意識」では、“歯や口腔に対する認識が低く、歯の状態の悪く、多数歯に及ぶものが多い”などの記載が見られた。

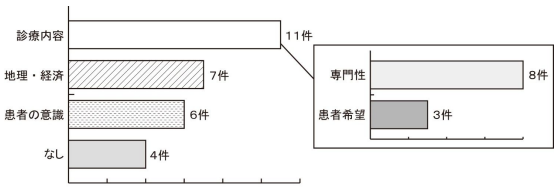

図 1 離島と都市部の歯科医療の相違点

「超高齢社会における離島での歯科医療の問題点はあるか」との問いに対する自由記述回答は、「診療内容」、「地理・経済」、「患者の意識」の 3 つの事項に分類された（図 2）。「診療内容」は、さらに“マンパワー不足”などの「資源・能力・体制」、“全身疾患をもつ患者の専門科との連携が困難”などの「医科との連携」の 2 つに分類された。「地理・経済」では、“交通手段や低所得者への治療”、「患者の意識」では、“高齢の患者さんは通院がおっくうになり、治療中断になったり、思うように完治できないことがある”などの記載が見られた。

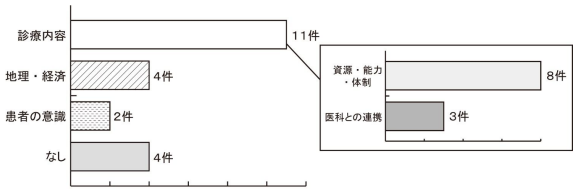

図 2 超高齢社会における離島での歯科医療の問題点

「現状を改善するために行政機関に取り組んで欲しいことは何か」との問いに対する自由記述回答は、「人材の育成・確保」、「公共交通の充実・交通費補助」、「医科 or 歯科の専門家との連携の援助」、「啓蒙活動」の４つの事項に分類された（図 3）。

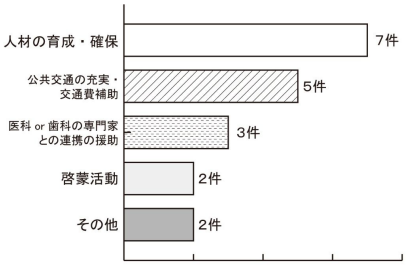

図 3 現状を改善するための行政機関への要望

（2）研究 2

回収率は、96%であった。

「超高齢社会の中で地域医療が抱える問題は何か」との問いに対する自由記述回答は、「在宅医療、要介護高齢者、有病者への対応」が最も多く、次いで、「多職種連携」、「歯科医療サービスの偏在」であった（図 4）。

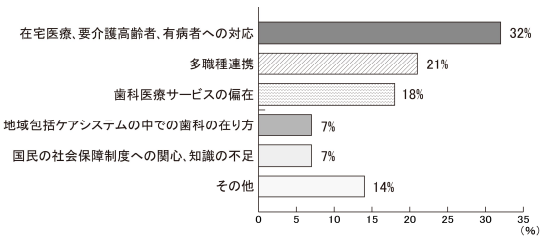

図 4 超高齢社会の中で地域医療が抱える問題点

「都市部と歯科医院に通院が困難な地方では診療の内容、患者の希望などに何か違いあるか」との問いに対し、73%があると回答し、“地方は短期間、少ない回数で済む治療を望む”や“都市部は予防、全顎的治療にも関心を示す”などの記載が見られた（図5）。

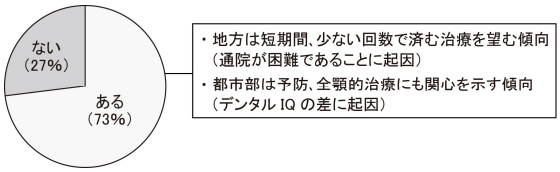

図5 都市部と地方の診療内容、患者希望の相違

（3）研究3

回収率は、58.6%であった。

「今、口の中で一番気になっていることは何か」との問いに対する回答は、「虫歯や歯周病の予防」が最も多く、次いで、「入れ歯、差し歯の状態」であった（図6）。

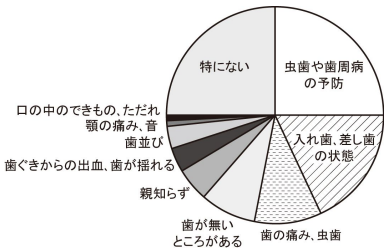

図6 口の中で一番気になっていること

「歯科治療を受ける場合、どのようにしたいか」との問いに対し、72%が「治療の必要性のある部分はすべて治療し、治療後の定期検診も受けたい」と回答したが、「歯科医院への通院はどの程度か」との問いに対しては、46%が「症状がある時のみ通院する」、17%が長期間通院していなかった（図7）。

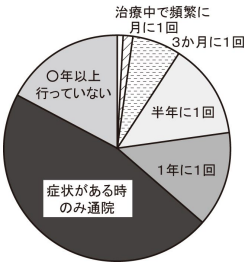

図7 歯科医院への通院頻度

「現在、歯科治療を受ける状況にどのくらい満足しているか」との問いに対して、「やや不満」、「不満」との回答は23%であり、具体的な希望として、島外の歯科医院への受診は時間、費用の観点から難しく、島内で完結できる体制づくりを求める意見が多く見られた。

本研究を通じ、へき地・離島における歯科医療の現状と問題点の一端が明らかとなった。得られた成果は、人材育成のための資料とするとともに、行政機関にフィードバックすることを検討している。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

① 田口則宏、古川周平、吉田礼子、松本祐子、岩下洋一朗、中山歩、大戸敬之、作田哲也、地域歯科医療教育に求められるもの -プロフェッショナリズムとの関連を見据えて-、日本総合歯科学会雑誌、査読有、9巻2017、11－18
http://jsgd.jp/?page_id=1022

〔学会発表〕（計8件）

① 中山歩、田口則宏、南弘之、地域歯科医療プログラムの実践ー地域で活躍する医療人の育成ー、第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、2017年

② 大戸敬之、松本祐子、中山歩、作田哲也、古川周平、岩下洋一朗、吉田礼子、田口則宏、離島歯科医療に求められるコンピテンシーについての一考察－島の歯医者の語りを通じて－、第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、2017年

③ 大戸敬之、松本祐子、中山歩、作田哲也、古川周平、岩下洋一朗、吉田礼子、田口則宏、総合歯科医の成長過程についての一考察 -島の歯科医の語りから-、第10回日本総合歯科学会総会・学術大会、2017年

④ 田口則宏、吉田礼子、松本祐子、岩下洋一朗、中山歩、大戸敬之、作田哲也、古川周平、総合歯科の理解を目指した卒前学外実習プログラム、第 10 回日本総合歯科学会総会・学術大会、2017 年

⑤ 中山歩、大戸敬之、田口則宏、鹿児島県の離島における歯科医療の現状、第 9 回日本総合歯科学会総会・学術大会、2016 年

⑥ 大戸敬之、岩下洋一朗、中山歩、松本祐子、吉田礼子、田口則宏、離島歯科医療実習が学生のその後に与えた影響、第 48 回日本医学教育学会大会、2016 年

⑦ 大戸敬之、岩下洋一朗、中山歩、松本祐子、吉田礼子、田口則宏、離島歯科医療実習から学生たちが学んだこと、第 35 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、2016 年

⑧ 中山歩、山口孝二郎、田口則宏、歯科医師臨床研修における漢方診療研修導入の試み、第 34 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、2015 年

６．研究組織

(1)研究代表者

中山　歩（NAKAYAMA Ayumi）
鹿児島大学・医歯学域附属病院・助教
研究者番号：10398290